



# 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の異時性胃癌罹患関連因子の検討

著者	阿見 麗子
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第17377号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00122053">http://hdl.handle.net/10097/00122053</a>

# 学 位 論 文 要 約

博士論文題目 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の異時性胃癌罹患関連因子の検討

東北大学大学院医学系研究科 医科学専攻

内科病態学 講座 消化器病態学 分野

学籍番号 B3MD5004 氏名 阿見 麗子

【背景】早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic submucosal dissection: ESD) の普及に伴い、残存胃粘膜に発生する異時性胃癌が問題となっている。早期胃癌 ESD 後の異時性胃癌罹患に関しては、ヘリコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*: *H. pylori*) 除菌による抑制効果が報告されているものの、その効果についてはいまだ議論がある。また、生活習慣と異時性胃癌の関連性についての報告はほとんどない。

【目的】早期胃癌 ESD 後の異時性胃癌罹患関連因子を明らかにすることを目的とした。

【対象】2003 年 6 月から 2012 年 11 月まで当院にて ESD を行った早期胃癌 698 例のうち、ESD 前後での胃切除症例、初発胃癌 ESD 後の内視鏡での経過観察期間 1 年未満の症例などを除いた 539 例 (男性 : 女性 = 421 : 118、平均観察期間 53.6 ヶ月) を対象とした。

【方法】本研究では、初発早期胃癌 ESD から 1 年後以降に診断された胃癌を異時性胃癌と定義した。早期胃癌 ESD 後の異時性胃癌累積罹患率を算出するとともに、年齢、性別、body mass index (BMI)、飲酒歴、喫煙歴 (ともに初発胃癌発生時点)、プロトンポンプ阻害薬 (proton pump inhibitor: PPI) 継続内服歴と異時性胃癌罹患との関連性を Cox 回帰比例ハザードモデルにて解析した。また、喫煙に関しては、喫煙状況を「現喫煙」「喫煙既往」「未喫煙」に分類、喫煙総量を pack-years (PY) で表記し、それぞれ Cox 回帰比例ハザードモデルにて解析した。

【結果】早期胃癌 ESD 後の異時性胃癌は 53 例で認められ、5 年累積罹患率は 9.5%であった。多変量解析にて年齢 60 歳以上 (hazard ratio [95% confidence interval] = 3.98 [1.22-12.9],  $P = 0.022$ )、喫煙 (2.13 [1.20-3.79],  $P = 0.010$ ) が異時性胃癌罹患の独立危険因子であった。喫煙の詳細に関する検討では、喫煙既往は有意とならなかったものの、現喫煙は有意な危険因子であった (2.48 [1.16-5.46],  $P = 0.019$ )。また、PY 20 以上は有意な危険因子であり (2.04 [1.07-3.88],  $P = 0.031$ )、PY による総量依存性が認められた ( $P$  for trend = 0.030)。

【結論】本研究では、年齢 60 歳以上に加えて、喫煙と異時性胃癌罹患の詳細な関連性が初めて明らかとなった。初発胃癌発見時に喫煙を継続していた患者、大量喫煙の既往のある患者では、より慎重に上部消化管内視鏡での経過観察を行っていく必要がある。